



「神の子」

3月4日に高等部、3月15日に小・中学部の卒業式を行い子どもたちの素晴らしい成長を目の当たりにしながら、私の好きなフレーズを思い出しました。

「子どもは神の子」。

子どもの成長を祝う「七五三」は、かつて重要な意味を持っていました。医療の発達していない時代のお産は、命の危険を伴うことも多く、子どもが幼いうちに悲しい思いをする親も多かったそうです。

子どもたちは「七つまでは神のうち」と言われました。七歳までは神様から預かった子どもであるという意味です。七歳まで無事に生きてきた子どもの成長を祝い、氏神様に感謝のお参りをするのが「七五三」だそうです。

まきびに通う子どもたちは、「神の子」だと思います。神様が、「この地域なら」、「この人たちの子どもなら」大丈夫と預けてくださったのだと思います。

私たち大人は、このことに最大限の敬意を払い、生まれて来てくれたことに感謝しながら、子どもたちを「神の子」として自分たちだけでなく、この地域のために、次代のためにみんなで力を合わせ、大事にしかも厳しく育てていかなければならないと思います。この神様から託された使命を固く心に誓って、今後もともに進んでいきましょう。

<校長 小田 幸伸>



<3/4 高等部卒業証書授与式>



<3/15小・中学部卒業証書授与式>



<門出の様子>

高等部3年生 卒業制作 ～校訓～

高等部3年生が、卒業制作として、木製の校訓を学校に残してくれました。まきび文化祭が終わり、皆で力を合わせて制作に取り組み、2月末に完成しました。



木版を削り文字を浮かび上がらせました。



文字に、アクリル絵の具で色を付けました。



裏に皆の名前を書きました。



台の板に文字をひとつひとつはめていきました。



除幕式を行い、披露しました。



2階 大会議室 前面にあります。

大会議室は、小学部から高等部まで様々な行事や学習で使用します。また、高等部の現場実習の「決意表明式」や「実習報告会」でも、使用します。子どもたち皆が見て、この校訓のように、夢に向かって、まっすぐに進んでいってほしいと願っています。卒業生の皆さんも、社会人の一員として頑張ってくれることと期待しています。

倉敷まきび支援学校の2年目が終わります

学習に必要な教材教具が揃ってきて、学習環境も整ってくる中、子どもたちは様々な活動に取り組み、新しいことにも挑戦し、学習を積み重ねてきました。4月当初の子どもたちの姿からすると確かな成長を感じます。この一年間、保護者の皆様に、温かいご理解とご支援をいただき、心から感謝いたします。ありがとうございました。

